

わたしたちの 生きた建築発見プログラム



大阪市では、大阪のまちを一つの大きなミュージアムととらえ、そこに存在する「生きた建築」を通して見えてくる、多様で豊かな都市の物語を大阪の新しい魅力として創造・発信する「生きた建築ミュージアム事業」に取り組んでいます。

その一環として、参加者自身が講師とともにまちを歩き、自分なりに感じた生きた建築の魅力を他の参加者に伝え、共有する市民参加型のエリア調査「わたしたちの生きた建築発見プログラム」を実施しています。

5回目の開催となる2025年度は、都島区高倉町周辺エリアでまちあるきを行い、参加者それぞれの視点で都島区の多様な魅力を共有しました。

	日程・場所	スケジュール	
まちあるき調査 参加者:9名	2025年 11月29日(土) 集合場所:ベルファ都島 ショッピングセンター	13:30~14:00	オリエンテーション
		14:00~16:00	まちあるき調査
		16:00~16:30	本日のまとめ
意見交換会 参加者:8名	2025年 12月21日(日) 集合場所:都島区役所	13:30~16:00	発表と意見交換
		16:00~16:30	総括



参加者それぞれが異なる視点から地域を読み取り、「何となく良い」と感じていた印象を言葉として示しました。個々の発表は多様でありながら重なり合い、エリアの特徴が立体的に浮かび上がっていく過程が印象的でした。戦前から現代までの住まいが混在する都島では、住宅の変遷を通して都市の歴史や暮らしの多様性を読み取ることができます。積極的な参加を通じて、地域の価値に目を向ける本プログラムの意義が証明されました。

講師：大阪公立大学教授 / 建築史家 倉方 俊輔 氏



正直なところ、これまで都島区にはそれほど注目してきませんでした。その意味で、今回の発見プログラムは私自身も大変勉強になりました。まちあるきと参加者の皆さんの発表を伺って、都島は都心に近い立地にありながら、古い木造長屋から高層の団地まで、多様な建築が現役で使われていて、様々な暮らし方を許容する非常に魅力的なエリアだと感じました。

講師：近畿大学教授 / 建築家 高岡 伸一 氏

まちあるき調査



都島区高倉町や都島北通、友洲町などのエリアを調査しました。その後、参加者の中には独自に調査を進める方もおられ、調査範囲は都島本通や京橋周辺まで広がりました。また、過去の地図を活用し、地域の歴史や時代の変遷について文献調査を行う参加者も見受けられました。



このあたりの建物は、間口が狭くても3階建てにしてなるべく大きく使おうという、大阪らしさのある戸建て開発で、あまり他の地域では見られない工夫が凝らされていますね。東京など他の大都市にはない、大阪によく見られる特徴で、長屋と戸建ての中間のような感じです。



倉方講師



参加者

ベルパークシティの建物は棟ごとにそれぞれ形が違っていました。

開発が行われた時代は、団地のように画一的な暮らしではなく、もっと豊かな暮らしのほうがいいという考え方が出てきた頃なので、高さや、デザインを変えたりしているのだと思います。



高岡講師



意見交換会



意見交換会では、参加者それぞれがまちあるき調査で見つけた「生きた建築」の魅力を発表資料にまとめ、他の参加者や専門家の講師と共有しました。参加者からの質問や感想に対し、講師が専門的な知見から解説を行い、その内容を他の参加者とも共有しながら意見交換を行いました。

意見交換会には、藤岡都島区長も出席されました。



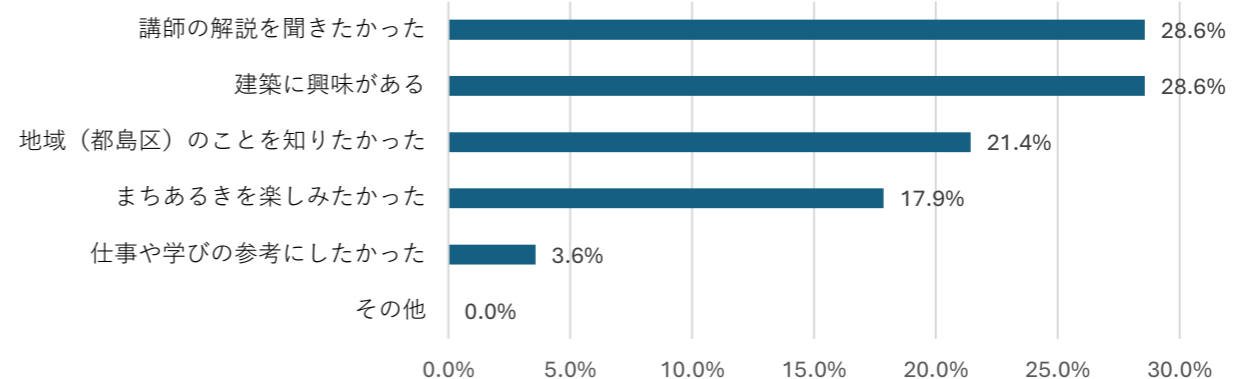
みなさんの発表を聞いて、都島区は本当にバラエティ豊かなまちだと改めて思いました。建築の歴史は、いろんな様式が各時代に存在するが、それを個性的に発信する作り手のエネルギーと、暮らす側のエネルギーを両方感じられた素晴らしい企画でした。



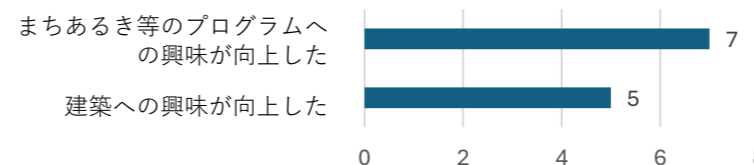
藤岡区長

参加者へのアンケート結果

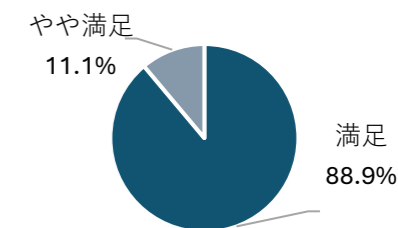
Q.1 参加された理由を教えてください（複数回答可）



Q.2 まちあるきに参加する前と後で変化したことはありますか？（複数回答可）



Q.3 講師の解説について



参加者の感想

- 先生の解説もあり、建築を見る視点を新たに学ぶことができた。普段の生活の中で見る建築の見方も意識してみようと思った。
- 講師の方の解説を聞いていて楽しかった。講師の方の建物の気づき方が面白いと思った。
- また2回目3回目と実施して欲しい。グループでの発表や、意見交換会がもっとあっても良かった。新たな知見・観点を得られた。ありがとうございました。



参加者

1990年のバブルの終わりに建てられた「K2ビル」という建物は、とても豪華な印象を受けました。

戦後を代表する建築家、篠原一男さんの関西で唯一の作品です。建物の真下に地下鉄が走っていることが、この建物の形につながっているのですが、都市という何か偶発的だったり、カオティックで思いもかけない出会いなどを建築で表現しようとした建物です。



倉方講師



参加者

榎並川の埋め立て跡は、周辺の区画に対して斜めに通っているので、建物は角を切ったりするなど、その形が面白いなと思いながら歩きました。

以前、川であったところにできた公園と、その隣地内のオープンスペースがつながるといったことが生まれ始めると、その場所のポテンシャルがより発揮され、使い方によってはとても面白い場所になると感じました。



高岡講師

